

【説明資料】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的、利用方法、作品自体やその製作過程で工夫したことを、文章、写真、図などで説明。この用紙1枚に記入し、PDFファイルに変換した後、ホームページに貼り付けてください。

学校名	北海道教育大学 旭川校	個人・ グループ名	勝瀬 駿太	作品名	2人掛けダイニングテーブル ウッドチェア×2
-----	----------------	--------------	-------	-----	---------------------------

私は今回、2人掛けのダイニングテーブルとウッドチェアを製作しました。

製作の経緯としては、まず「木材加工実習Ⅱ」という授業の中で椅子を一脚製作しました。しかし、椅子一つあるだけでは何にもならないと考えたので、毎年、北海道教育大学旭川校の学校祭において技術分野の学生で開催している「木工展」への出展を機に、足りないと感じていた椅子を一脚と椅子に合う机を製作しました。

この作品の一番の特徴は「椅子の曲線」です。過去の先輩が残した型板を利用して作成しています。なので、木を曲げることなどはせず、一枚の板から切り出して作成しています。その曲線に合わせて、机のデザインも曲線を中心として、全体として統一感が出るように工夫しました。

また、接合には釘、ねじは一本も使用していません。(机の天板、椅子の座面は木ね



じで留めています。)

以下に、

ダイニングテーブル、
ウッドチェアのそれぞれの工夫点、
製作上の工夫点を列挙します。

《写真》
右：ほぞ組した脚
左：ビス留めた天板



○ダイニングテーブル

- ・全体として、統一感を持たせる丸みを帯びたデザイン。
- ・通常のダイニングテーブルよりも足を長くして高いテーブルにした。このため良い姿勢を保つことができる。
- ・天板は、4度塗り(油性アクリルニス)で耐水性や手触りを追求。
- ・天板の角の丸みは鉋、やすりの手作業で納得のいくまで追求→

○ウッドチェア

- ・背中にフィットする曲線。
- ・座面は水平でなく角度をつけることで、座り込みやすい。
- ・高い背もたれ。



○製作上の工夫点

- ・製作手順の見直し。製作を進めながら、予定の工程通りでよいのかを吟味しながら臨機応変に変えていった。
- ・塗装をよりきれいにするために組み立て前に行った。

○今後の展望

今回の作品は、今はまだ実家で暮らしているので二年後、一人暮らしを始めるときに部屋に置きたいと考えています。幸いにも自分はまだ三年生なので、来年度は大学4年間の集大成として1つの大きな作品作りに挑戦したいと考えています。今年度はその足掛かりとして納得のいく作品を作ることができました。来年にご期待ください。